

# 第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

## 小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	熊本市立画図小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	もっと知ろう画図 ～江津湖大作戦～

### 〈活動・研究の意義および活動報告〉

#### 1. 活動・研究の意義

本校は、熊本が誇る自然豊かな江津湖に隣接する校区にある。江津湖は多種多様な生き物がいて、憩いの場として人々に親しまれている。一方、ゴミ問題や湧き水の減少、水質汚染、外来生物の存在などの課題も多くある。校区の近くにあるということもあり、休日に家族で江津湖に遊びに行くなど、子どもたちにとっては身近な場所である。江津湖から流れ出る加勢川に、外来植物のウォーターレタス（ポタンウキクサ）が大量発生している実態もある。一昨年、重機を使っでの撤去作業の様子がニュースで報道されていた。江津湖は子どもたちにとって身近ではあるが、江津湖の生き物や環境について知る機会がなかったため、本年度も3年生の総合的な学習の時間において、本活動を計画した。もっと良い江津湖にする意識を持って、自分たちにできることを探り、やってみるということは、SDGsの視点である持続可能な開発目標を考えることにつながる。そこで、専門家にSDGsについての話を聞き、カードゲーム「2030 SDGs」を体験することは、子どもたちがSDGsの目標を知ることにとっても有効であり、江津湖の素晴らしさを再発見する機会につながり、持続可能な開発目標とも関連させることで実社会に生かしていく能力が身につく機会になると考えた。

#### 2. 活動報告

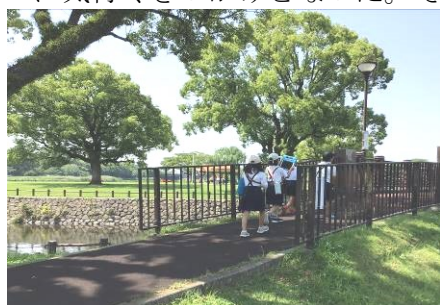
- (1) 対象者 3年生 152人
- (2) 教科 総合的な学習の時間
- (3) ねらい

○子どもたちが自分たちの身近にある江津湖をSDGsの視点で考え、専門の人の話や調査活動を通して、江津湖の自然環境の良さと課題に気づき、今後もよりよい江津湖にしていきたいという誇りや愛着を持ち、自分たちにできることを考え実践する力を育成する。

#### (4) 活動内容

##### ○江津湖を知る（5月～9月）

5月15日～9月30日 江津湖の自然環境についての現地調査及び校内での書籍やインターネットを使っでの調べ学習を行った。5月16日に上江津湖、6月5日に下江津湖に現地調査に出かけた。自然を五感で感じ、普段、気に留めていなかったものに目を向け、江津湖のよさと課題に気づききっかけとなった。その後、タブレットで個人でのまとめとクラスで発表を行った。



## ○SDGsを知る（10月～2月）

10月20日 NPO 法人 SDGs Association 熊本の神田みゆき氏から熊本の環境と SDGs についての講話を聞き、SDGs の意義と 17 の目標について知る機会を得た。子どもたちは 17 の目標に興味を持ち、その後、関心のある目標について詳しく調べる活動を行った。2月13日に2クラス、21日に3クラス、それぞれの教室で神田みゆき氏から SDGs についての講話を聞き、SDGs のファシリテーターの方々とカードゲーム「2030 SDGs」を体験した。カードゲームを通して、子どもたちはプロジェクトを達成するためには協力することの大切さ、経済・環境・社会のバランスが大切なことに気付くことができた。

次に、17の目標について調べを進めていく中で、自分たちの身近な問題に目を向ける子どもが増えてきた。前半で学習してきた江津湖と身近な問題に着目し、「江津湖や身近な問題」を SDGs の 17 の目標の視点で考え、自分たちにできることを考えることにした。

## ○江津湖や身近な問題と SDGs（3月）

「江津湖や身近な問題」を SDGs の 17 の目標の視点で考え、自分たちにできることを考えたことを基に、プロジェクトカードを自分たちで作った。3月5日、神田氏に作ったカードを見てもらい、問題のカードの行いを続けると、地球は悪くなり、自分たちにできることのカードの行いを続けると、地球は良くなることを一緒に考えた。そして、自分たちで作ったカードだけでカードゲームをすると、「環境」はどんどん良くなるが、「社会」はあまり良くならない結果になった。そこで、既存のカードも交えてカードゲームを行うと、「環境」は少し悪くなるが、社会は良くなっていく結果になり、何かを守るためには何かが悪くなることにも気付くことができた。また、現実社会では、自分たちにできることもあるが、子どもの力だけでは、良くしていくことが難しいところもあるので、大人に助けを求めたり、自分たちでできることを取捨選択したり、周囲に啓発していくことの大切さ、そして何より、身近な人たちと協力していくことの大切さを学ぶことができた。

この活動を通して、SDGs の視点を意識し、身近な環境にも目を向け、身近な環境を守り、住みやすい地域にしていきたいという思いを持つことができたと思う。

